



# SASEBO WEEKLY

2006~2007年度テーマ **LEAD THE WAY** 率先しよう 2006~2007年度 R.I.会長 **ウィリアム・ビル・ボイド**

佐世保ロータリークラブ 会長●中島 祥一 幹事●富永 雅弘  
事務所●佐世保市島瀬町10-12 親和銀行本店内 TEL 0956-22-7720 FAX 0956-25-6323  
例会場●佐世保玉屋8階(毎週水曜日) TEL 0956-23-8181

平成 19 年 1 月 24 日

第 2,778 回例会

NO 27

《本日》会員数 83名(出席免除会員 24名)・出席 45名・免除者出席 13名・欠席 16名・ビジター 1名・出席率 76.30%

《前々回》会員数 82名(出席免除会員 24名)・出席 44名・メークアップ 14名

修正出席率 100.00%

## 会長挨拶

会長 中島 祥一 君

こんにちは、大寒も過ぎました。だんだんとネタが少なくなってまいりました。そこで、今回わが社がISO 14001:2004 をとりましたので、環境のさわりのさわりを話します。こんな項目を見つけました。

「環境にやさしい生活」の科学的な間違い  
「太陽電池」に税金が使われている矛盾

太陽から地球に届く光のエネルギーは1秒間に42兆キロカロリー。30%は大気で反射され、70%が地球に吸収されます。人間が使っているすべてのエネルギーの7,000倍にもなる。その太陽を利用するのですから、なんら問題はないと思うでしょう。しかし、太陽電池は火力発電よりコストが高くなります。なぜ高くなるのか、アモルファモスシリコンだけでは電気は出来ません。その他、直流交流変換装置、その他の機器が必要です。そこで補助金で高くなった分を補うのです。市販の電気より高くなった分、補助金で補うことは「環境に悪い」ということです。

何%補助金がでるか、その%だけ環境に悪いのです。石油を燃やすよりコストがかかるということは、燃やす以上の二酸化炭素が排出されているのです。「目に見えるものだけを注目する」ということは、「全体を考えずに、自分に関係することだけを重視する」ということでもあります。

「わたしは環境に貢献しています」ということは、「私だけが税金をもらって環境を守っています」というものでもないでしょう。環境についてでした。

## 例会記録

○ロータリーソング「我らの生業」

○卓話者

海上自衛隊 佐世保地方総監部

佐世保地方総監 香田 洋二様

副官 田中 信也様

○ビジター

佐世保南RC 柳田 昌洋君

○ゲスト

地区交換学生 シイジャン 侍依仁さん

## 幹事報告

幹事 富永 雅弘 君

### 1. 国際ロータリー

ROTARY WORLD 1月号

### 2. (財)ロータリー米山記念奨学会

理事長 島津 久厚 君

- ①感謝状送付の件  
大神 邦明 会員  
米山功労者  
第4回マルチプル



- 佐世保RC 米山功労クラブ 第70回
- ②確定申告用領収証送付の件
- 2006年1月～12月ご送金頂きました方へ確定申告用領収証
  - 特定公益増進法人の証明書の写し
  - パンフレット

**3. 長崎ロータリークラブ会長 松本 慶蔵 君**  
**70周年記念事業実行委員長 前田 三郎 君**  
 創立70周年記念例会のお知らせ

日時／平成19年2月22日(木)  
 午後12時30分～午後1時30分  
 場所／ホテルニュー長崎 3階 鳳凰閣の間

**4. 佐世保学園長 福元 俊一 様**  
 成人式ご臨席へのお礼状

**5. 海上自衛隊 佐世保地方総監部 広報係**  
 「西海」機関紙

**委員会報告**

■**会長エレクト 大神 邦明 君**  
 本日、次年度期前 理事・役員会を開催いたします。

■**親睦活動委員会 山本 聡 君**  
 長寿祈願祭並びに祝賀会のご案内  
 平成19年の長寿祈願祭並びに祝賀会を下記の通り開催致します。  
 会員各位の多数のご出席をお願い申し上げます。尚、お祝い申しあげる方々は次の通りです。

米寿 (大正 9年生まれ)	松尾 弘司 君
傘寿 (昭和 3年生まれ)	高橋 章文 君
	東 陽三郎 君
古希 (昭和13年生まれ)	辻 昌宏 君
	田中丸善保 君
還暦 (昭和22年生まれ)	梅村 良輔 君
	幸良 秋夫 君

日時／平成19年1月31日(水)  
 11:00 祈願祭 亀山八幡宮

12:30 例会 玉屋8階  
 18:30 祝賀会 玉屋7階文化ホール  
 会費／参加者 (記念品代含む) 12,000円  
 (当日会場で頂きます)  
 欠席者 (記念品代) 4,000円

**慶 祝**

出席委員会 峯 博之 君

- 永年会員表彰  
 井手 弘和 君 (39回)  
 東 陽三郎 君 (19回)  
 井上 齊爾 君 (23回)
- 出席100%表彰  
 玉野 哲雄 君

**ニコニコボックス**

親睦活動委員会 吉富 誠也 君

中島 祥一 会長、富永 雅弘 幹事  
 円田 昭 副会長、福田 金治 君  
 玉井 晃 君、古賀 巖 君、山縣 義道 君  
 円田 三郎 君、長島 正 君、飯田 満治 君  
 梅村 良輔 君、山本 聡 君、宮内 一郎 君  
 町 孝 君、小川 洋 君、外間 雅広 君  
 中川内眞三 君、高田 俊夫 君、大神 邦明 君  
 香田総監の卓話に感謝して。

**大神 邦明 君**  
 いよいよ次年度の期前理事・役員会を今日から開始いたします。皆様、1年半よろしくお祝い致します。

**東 陽三郎 君、井上 齊爾 君、玉野 哲雄 君**  
 永年会員及び出席100%表彰ありがとうございます。

**高橋 章文 君、佐々木秀也 君**  
 誕生祝いありがとうございます。

◇

ニコニコボックス	本日合計	25,000円
	累 計	593,000円

## ロータリー3分間情報

ロータリー情報委員会 委員長 井上 齊爾 君

### 「RIの規定審議会についての話」

規定審議会が今年開催されるはずですが、3年前に武井パストガバナーが2740地区の代表として出席された会議です。すごい量の立案があって、大変な会議であったとお話いただいたことです。



今年の審議会の立法案の中で、判りやすい内容がありましたので見てみますと、クラブ例会についてや出席についての立法案の中で、

- ①クラブ例会を週1、又は2週に1回のいずれでも良いと認める件
  - ②クラブ例会を少なくとも月に2回開くとする件
  - ③連続6日を超えて例会をとりやめないという条件付で、クラブ例会を年間7日までとりやめてもいいと認める件
- …これらは日本からの立案ではなさそうです。

日本からの立案では、

- ④一般に認められている祝日は、法定休日以外に拡大する

次に出席について

- ①ロータリー年度の各半期ごとに、例会の60%を出席義務としているのを50%に引き下げる件
- ②上記50%のうち25%（現在は30%）を所属クラブに出席義務を
- ③出席記録の算出に関する規定で、理事会の承認した理由による欠席を算定に含める案
- ④すべての出席免除会員の欠席を算定に含める案も出されています

又、メイクアップについて

- ①例会の前後14日以内にMCをすること→これを21日以内に延長する案
- ②日本よりの提案ですが、14日は7日に短縮してはという案

この他、クラブ理事会や奉仕委員会の会合への出席を例会出席と認める規定を廃除する

（要するに理事会や委員会活動による出席補填は廃止する）等、各国からいろいろな案件が出されて、どれが採用されるのか判りませんが、審議会はどんな結論を出すのか、興味ある会議のようです。

## 卓 話

海上自衛隊 佐世保地方総監部  
佐世保地方総監 香田 洋二 様



### 『自衛隊統合運用に思う』

防衛省へと移行する平成19年の新たな門出を隊員一同と厳粛に迎えることができました。皆様方におかれましても、輝かしい新春を健やかに迎えの事と、心からお慶び申し上げます。

さて、1月9日から防衛庁から防衛省へと歴史的な変革を遂げたわけですが、自衛隊としても単に名称の変更に終わることなく、組織の再構築に日夜努力を重ねていることは言うまでもありません。そこで、特に統合運用態勢がスタートし、2年目を迎えるにあたっての所信の一端を述べてみたいと思います。

元より陸・海・空自衛隊の統合運用は、「自衛隊を取り巻く環境の変化に速やかに対応し、自衛隊の運用上の問題を抜本的に解決するため、各自衛隊ごとの運用を基本とする態勢から、陸・海・空自衛隊を当初から一体のものとして有機的に運用する統合運用を基本とする態勢へ移行する」ことを目的として導入が決定されたものであります。ご案内のとおり、米国をはじめとする先進諸国の多くでは、すでに統合運用を実施しており、その運用の成否が概ねその国の政治制度及び軍事組織の成熟度を測る指標であると言っても過言ではないと考えます。

因みに我が国における統合運用は、「国家として持てる力を余すことなく効率的に使う」という思考から発露したものであり、単に諸外国の模倣として創案されたものではありません。もっともすでに軍隊の統合運用を実施している諸外国にあっても、その必要性ある

いは統合運用に至る過程において、おそらく現在の我が国と同様の背景認識であったであろうことは想像に難くありませんが、おそらく各国は、長期的視野、歴史的変遷、地政学的条件から、脅威の主体を考察し、軍事目標を確立し、目標を達成するための基本的な戦い方を追求した結果として、軍隊の統合運用に到達したことでありましょう。しかしながら、その道はまさに「棘の道」でありました。

例えば米国では、1948年、統合参謀長会議が統合活動に関する参謀本部作戦副部長級による委員会を創設し、その際陸軍は、空輸、戦術航空支援、防空、両用戦に関する統合機関の創設を提案しました。他方、海空軍は、「この統合機関が軍種間の責任の転移を含む」として強く反対し、特に空軍は、「戦術、装備等を自ら判断すべきものである」と頑なに主張しました。統合に関わる当時の主たる論点だけでも実に9項目に及び、これらを概ね解決するために、米国は20年以上の歳月を費やしました。

さて、改めて我々の周囲を見つめ直してみたいと考えます。統合運用の2年目を迎えた自衛隊は、前述したとおり「棘の道」に足を踏み入れました。統合化への努力が進む中で、陸・海・空それぞれに、依然として存在する温度差に苛立ちを露わにする人々がいます。

一方では「文化の違い」と称し、日々の業務処理に追われ、「統合問題は担当部署に任せておけばよい」と傍観する人々もいます。米国の20年を思えば、このような現状はある意味想定内とも言えましょう。しかし、昨今の周辺情勢を鑑みるに、我が国が米国と同じ時間を許容されているとはとても思えません。また、現在我々が直面している統合運用の壁は、すでに多くの国が乗り越えてきたものであることを考慮すれば、その教訓を学び反映することにより、さほど時間を要さずとも克

服可能でありましょう。国家の方針が定まっている以上、我々自衛官一人ひとりの意識の希薄さが、あるべき進展を阻害し、自ら統合運用の壁を築いているならば、それは誠に許されざることであります。そして、常に実戦を念頭に置き、日常の業務を見つめ直す姿勢が求められているのであります。

佐世保地方隊は、西海の護りに任ずる最前線部隊であります。とりわけ警備区を同じくする陸上自衛隊西部方面隊、航空自衛隊西部航空方面隊及び南西航空混成団の統合への意気込みには、我々も気後れするほどの熱意を感じます。今後とも彼らと手を携え、引き続き「一所懸命」、そして「やせ我慢」を旗印に、国民の高い期待に応えるべく、隊員一丸となって更なる実力の研鑽に努め、重責を全うする所存であります。本年も各位の一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

.....

**\* 次回例会予告 \***

卓話 峯 博之 会員

**お詫び**

先週の会報で、クラブ協議会の中の会計のお名前（井手孝邦さん）を間違っ

て掲載しておりました。申し訳ございませんでした。心よりお詫び申し上げます。

古賀 巖

(今週の担当 小川 洋)

**クラブ会報委員会**

委員長 古賀 巖 委員 小川 洋・長富 正博  
副委員長 隈元 勝則 委員 松尾 文隆・町 孝